

佐保台小学校稲刈り・レポ

梨本 哲

10月13日(木)秋晴れ、佐保台小学5年生の稲刈り体験の日。始まる前に会員で水田刈り取り作業範囲のテープ張り等の準備を行った。

10時頃に引率先生3名と児童25名(男子18名、女子7名)が水田前に到着した。

ことし6月9日、同児童による田植えから127日目、今年は天候にも恵まれ生育も良好だ。

開始にあたり千載会長の挨拶があった。続いて生徒代表から「稲刈りの用意をしてくれてありがとう。よろしくお願いします」と元気な声で挨拶があった。

次に鈴木顧問から稲刈りの注意事項説明が図を用いてされた。

- ① 昔ながらの稲刈り体験をしてもらう。
- ② 稲の地上20cm位を手で持ち、鋸カマで地面近くを刈る。会員が手本を示し、児童代表がこれを実演した。
- ③ 刈り取った稲は6株ずつまとめて置いて紐(ひも)でくくる。

次に先生から注意事項説明として

- ① カマでのけがに注意する。
- ② 転倒に注意。
- ③ 先輩に対しては敬語、丁寧語を使うこと。

10時20分頃、北側水田「はぐくみ」に13名、南側水田「未来っ子」に12名の児童たちに並んでもらい一人3列テープ張り位置まで刈り取り作業を開始した。



ぬかるみある田んぼに長靴がはまり込み、抜けなくなった生徒もいた。改善方策の検討が必要と思われる。

次は6株ずつの稲を紐で束ねる作業を行った。日常で紐かけをすることが無いのか出来ない生徒が多かった。手本を見せ真似てもらった。正しいやり方は難しい。

束ねた稲穂を二つに分け広げ、竹で組んだ棒にかける。次の稲穂も二つに分け広げ先の稲穂と角度を変えてかける。稲穂に十分に太陽の光と熱を当て乾燥させる。これを「稲架掛け(はさがけ)」という。よく乾いた米はあまみがますといわれている。

11時30分頃作業完了し全員集合した。まず先生から「学習から学ぶ」、「経験から学ぶ」なかで今日は経験から学んでもらった。

次に生徒3名から感想として次の発表があった。

- ① 最初しんどいと思ったが楽しかった。
- ② カマにあたると痛かった。
- ③ 怖いなどと思った。

最後に鈴木顧問から今年で14回目、第1回目参加の水上さんはカンボジアの小学校で先生をやられている。11月の給食で刈り取った黒米(品種さよむらさき[もち米])を食べてもらいますと話があった。

天日干しされた稲は、10月27日に児童が参加して脱穀の作業を予定しています。今年の水稲栽培の体験学習は終了します。

スタッフの皆さん、ご苦労様でした。

